

平成27年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成27年4月～平成28年3月

1. 学校概要

学校名 広島市立古田中学校

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 中高一貫教育 高等学校
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()

所在地 〒733-0874
広島市西区古田西町27番—1号

E-mail : huruta-j@e.city.hiroshima.jp

Website : <http://cms.edu.city.hiroshima.jp/weblog/index.php?id=j1043>

児童生徒数 男子 439 名 女子 445 名 合計 884 名
児童・生徒の年齢 12 歳～ 15 歳

2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

3. 活動内容

平和学習・国際理解

本校では総合的な学習の時間に「平和」を軸にした取り組みを行っている。

1 目標

「平和」をテーマとした横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、国際社会における様々な問題と自らの日常生活や身近な社会を結びつけて課題を見つけ出し、よりよく解決する資質や能力を養うとともに、主体的、協同的に取り組む態度を身に付け、自己の生き方を考えることができるようにする。

2 活動内容

①国際理解・平和学習

本校の国際理解・平和学習では、1年生の「ヒロシマ」から3年生の「世界の平和」へと繋げる流れで計画を立て、生徒の主体性を大切にしながら学習をすすめている。表1は目標・時間数を表している。

表1 3年間の計画を立て、

	学年ごとの目標	内容	時間数
3学年	【世界の平和を考える】 ○国際社会の平和に関わる問題を自分の日常生活と関連づけて課題を見つけ、解決するための方法を考え、その考えを発信することで、世界の平和について深く考える力を育てる。	・平和公園フィールドワーク ・平和集会	10時間
2学年	【日本の平和を考える】 ○ヒロシマ・ナガサキや日本の平和について自分の日常生活と関連づけて課題を見つけ、解決するための方法を考え、発信し、討議・議論を行うことで、日本の平和について深く考える力を育てる。	・長崎フィールドワーク(修学旅行) ・平和集会	10時間
1学年	【ヒロシマの平和を考える】 ○ヒロシマの平和について自分の日常生活と関連づけて課題を見つけ、解決するための方法を考え、発信することで、ヒロシマの平和について深く考える力を育てる。	・平和公園フィールドワーク ・平和集会	15時間

②平和集会(8月6日)

・本校では8月6日に、全校生徒が登校し、平和学習を行っている。本年度は、川崎市折り鶴の会 会長 森政 忠雄 氏 他古田小出身者(昭和20年卒業)から原子爆弾の基本知識や実際の被爆体験を聞き、平和について考える集会を行った。

・平和集会のねらいは、原爆投下71年を迎えるにあたり、被爆体験の話を聞き、戦争、原爆の悲惨さについて考えるとともに、被爆体験を伝えていくことの意義を深く考え、世界平和を築く意識を高めることである。

表2 平和集会の流れ

時刻	内容	場所
7:55 8:00	登校・出欠確認 平和祈念式典参加（TV視聴） （8:15 黙祷）	各教室
8:50	生徒会による報告 （碑前祭の様子）	
9:00 ～11:00	被爆体験者の話	体育館
11:10～ 11:30	振り返り（被爆体験を聞いて感じたこと）	各教室

3 活動の様子（1年生）



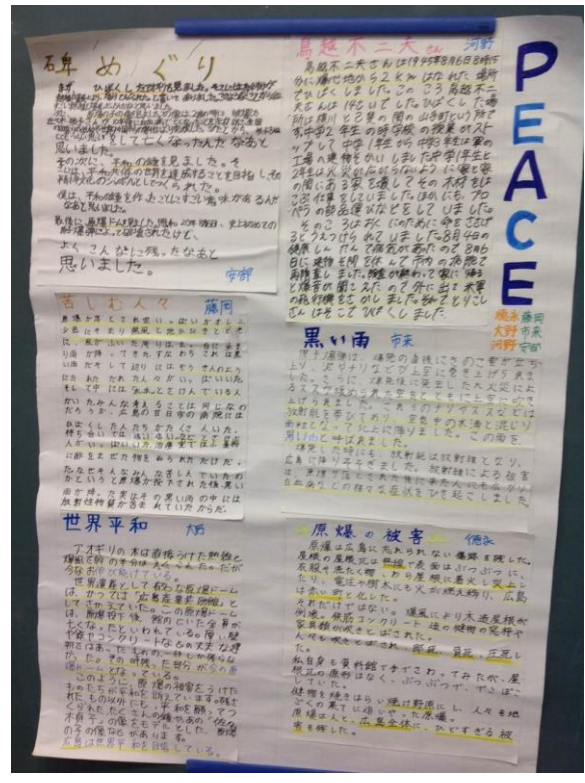
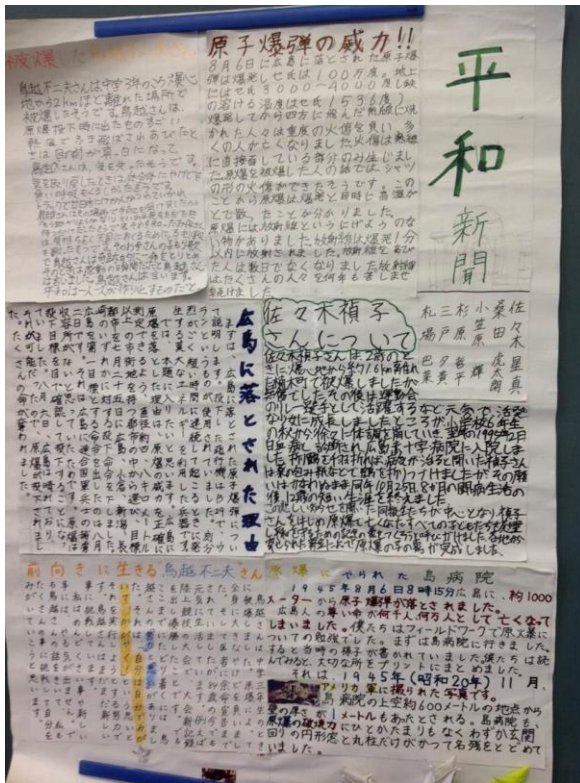
原爆の子の像で、碑文を読んでいる生徒。白血病で亡くなった佐々木禎子さんのことについて考えました。



被爆体験を真剣に聞く生徒たち。熱い語りに引き込まれ、当時の悲惨な様子を身近に感じることができました。



原爆資料館では、実物大の原子爆弾を見て、その恐ろしさを感じるきっかけになりました。



平和公園フィールドワーク、原爆資料館見学、被爆体験の講話、自分が調べたことをもとに新聞を作成し、発表会を実施しました。発表会は保護者も参観されました。

(2) 活動時間について (下記から選択して下さい。)

- 通常の授業時間を使用 (総合的な学習の時間を含む)
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他 ()